

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府福知山市長田野町1-5-4								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	日本製紙クレシア株式会社京都工場 取締役京都工場長 茂木正俊								
事業者の主たる業種	紙衛生材料製造業								
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	20年 4月 ～ 23年 3月								
基本方針	平成19年度を基準としてエネルギー消費効率の改善、廃棄物排出量の削減、全部門での環境マネジメントシステムの運用により3%以上の温室効果ガス排出量の削減を目指す。								
推進体制	工場長を責任者とする環境管理委員会の設置と実施計画の策定、例月の進捗管理システムを構築する。								
環境マネジメントシステム名称 適用範囲 取得年月日	環境マネジメントシステム名称		ISO14001						
	適用範囲		紙製品及び紙おむつの製造・加工及び出荷						
	取得年月日		2003年12月19日						
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	20～22	工場製造部門	製品あたりの不良率を削減し、製品原単位を改善する。						
	20～22	工場製造部門	5年計画でインバーター化の推進や省エネ機器、高効率照明の導入を行い、電力使用量を削減する。						
	20～22	工場製造部門	排熱回収強化及び乾燥管理強化に努め燃料使用量を削減し、製品原単位を改善する。						
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）			
	A 事業所等排出区分	40,036 t	38,823 t	-3.0 %	38,368 t	-4.2 %			
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%			
	C その他排出区分	t	t	%	t	%			
	排出合計	*1 40,036 t	*2 38,823 t	-3.0 %	*4 38,368 t	-4.2 %			
実績に対する自己評価	計画期間中に3%以上の温室効果ガス削減を目指している中、21年度が7.5%、22年度が4.2%の削減に止まった。22年度は、生産量が増加したためである。22年度の取り組みとして製品あたりの不良率削減、インバーター化の推進、高効率照明に更新（144台）、乾燥管理強化によるガス使用量削減、圧縮空気の使用量削減や漏れの早期発見修理に努めた。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	京都工場	二酸化炭素換算 生産高（t）	0.713	0.692	-3.0 %	0.607	-14.9 %		
		二酸化炭素換算			%		%		
		二酸化炭素換算			%		%		
	実績に対する自己評価	計画期間中に3%以上の温室効果ガス排出原単位の改善を目指している中、21年度で5.5%、22年度は14.9%の削減が達成され順調に削減を図ることが出来た。排出原単位は21年度よりも約9.4%改善されている。これは、省エネに取り組んだ成果と都市ガスへの燃料転換の効果と考える。今後も省エネと製品不良率削減への取り組みを推進していく。							
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）				報告年度（実績）			
		取組量等		（二酸化炭素換算）		取組量等		（二酸化炭素換算）	
	森林の保全及び整備	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha	（吸収量）	t
	府内産の木材の利用	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t	（利用量）	m <sup>3</sup>	（削減量）	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（発電量）	kwh	（削減量）	t	（発電量）	kwh	（削減量）	t
	グリーン電力の購入	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ	（削減量）	t
		（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh	（削減量）	t
	削減量等合計	*3 t				*5 t			
	差引排出量 （排出合計-削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）			
		*1 40,036 t	(*2)-(*3) 38,823 t	-3.0 %	(*4)-(*5) 38,368 t	-4.2 %			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動									
特記事項									

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。  
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。  
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。  
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。  
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。  
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達採用、特定フロンなどの条則指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。